opusdei.org

黙想の祈り:待降節 第2月曜日

黙想のテーマ:「神の救いの 力に対する信仰と希望」「喜 びと信頼」「困難を乗り越え て人に伝える」。

神の救いの力に対する信仰と希望

喜びと信頼

困難を乗り越えて人に伝える

「ある日のこと、イエスが教えておられると、ファリサイ派の人々と律

法の教師たちがそこに座っていた。 この人々は、ガリラヤとユダヤのす べての村、そしてエルサレムから来 たのである。主の力が働いて、イエスは病気をいやしておられた」(ルカ5・17)。典礼はこの福音書の場面 を待降節第2週に位置づけること で、私たちが、私たちを癒す神の力に、ますます信頼するように招いています。

その家には多くの人々が集まってい ました。「すると、男たちが中風を 患っている人を床に乗せて運んで来 て、家の中に入れてイエスの前に置 こうとした。 しかし、群衆に阻まれ て、運び込む方法が見つからなかっ たので、屋根に上って瓦をはがし、 人々の真ん中のイエスの前に、病人 を床ごとつり降ろした」 (ルカ5・ 18-19)。これは大胆な行為であ り、それは男たちの中風の人に対す る愛の表れでした。またそれは病人 の、主の癒しの力に対する従順さと

信仰の表れでした。病人は危険を顧みず、床ごとつり降ろされることを許可しました。それは、イエスが他の場所で行った奇跡が、彼においても実現すると、確信していたからかもしれません。

もしかしたらその場にいた人々の中 には、この出来事をイエスは不愉快 に思うだろうと考えた人もいたかも しれません。しかし主の反応は異な りました。福音書は言います「イエ スはその人たちの信仰を見て、「人 よ、あなたの罪は赦された」と言わ れた」(ルカ5・20)。「このいやし のわざを通じて、イエスは自分が何 よりも霊をいやすことを望んでいる ことを示しました。中風は、罪のた めに自由に動くことができず、善へ の道を歩むことができず、自ら最善 を尽くすことができない、すべての 人を表すたとえです。実際、霊のう ちに巣食った罪は、偽りと怒りとね たみを初めとする罪のひもで人を縛 り、少しずつ人を動けなくしてしまいます。だからイエスは、律法学者のいる前で、つまずきを引き起こしながら、まずこういったのです。 『あなたの罪はゆるされる』 | m.

主の慈しみは、私たちの喜びと主へ の信頼の究極の源です。「私は あま りにも罪深い人間だから主は耳を貸 してくださらない、とでも思うので すか。そんなことはありません。主 は憐れみの泉です。(...) 聖マタイ の話に注目してみましょう。あの病 人はひと言も口にしません。 ただ、 そこ、神のみ前にいるだけです。そ れに対しキリストは、 病人の痛悔の 心と功徳もない自らを悔やむ病人の 心に動かされ、すぐに、いつもの 憐 れみをお示しになりました。『子 よ、元気を出しなさい。あなたの罪 は赦される』(マタイ9・2)と」[2]。

そのとき、律法学者やファリサイ派 の人々は疑念の声を上げ始めまし た。「神を冒瀆するこの男は何者 だ。ただ神のほかに、いったいだれ が、罪を赦すことができるだろう か | と (ルカ5・21)。 少し謙虚であ れば、弟子たちのように、「もし彼 が罪を赦すのであれば、それは神が 彼と共にいるからである | と考える ことができたかもしれません。しか し、彼らは自分たちの権威・権力を 維持することにこだわり、イエスの 働きを妨げることだけを考えていま した。「イエスは、彼らの考えを 知って、お答えになった。『何を心 の中で考えているのか。〈あなたの 罪は赦された〉と言うのと、〈起き て歩け〉と言うのと、どちらが易し いか。人の子が地上で罪を赦す権威 を持っていることを知らせよう。』 そして、中風の人に、『わたしはあ なたに言う。起き上がり、床を担い で家に帰りなさい』と言われたし (ルカ5・22-24)。

イエスは、罪の赦しこそメシアの最 も重要な使命であることを明らかに しました。その権威を示すために、 中風を癒やします。しかし、何より 重要だったのは、病人が内なる喜び を回復し、赦しの恵みを受けたこと でした。「弱った手に力を込めよろ めく膝を強くせよ。心おののく人々 に言え。『雄々しくあれ、恐れる な。見よ、あなたたちの神を。敵を 打ち、悪に報いる神が来られる。神 は来て、あなたたちを救われる。』 そのとき、見えない人の目が開き聞 こえない人の耳が開く。そのとき歩 けなかった人が鹿のように躍り上が る。口の利けなかった人が喜び歌 う。荒れ野に水が湧きいで荒れ地に 川が流れる」(イザヤ35・3-6)。

「ここでいわれているメッセージ は、明らかです。罪によって麻痺し た人は、神のあわれみを必要としています。このあわれみを与えるためにキリストは来られました。それは、その人の心がいやされて、人生全体が再び元気を取り戻すためです。(…)けれども、神のことばはわたしたちに、中風の人を担いだはわたしたちに、中風の大を担いではとがもっていたような、信仰の目と信頼をもつように招いています」

「③」。

ました。「時間を無駄にしたくはありません。キリスト教が生まれて以来ずっと、環境上の困難はあったといですから、環境を口実にすることはできないでしょう。そこで、次の事実を肝に銘じておいて欲しいと思います。周りの人々を効果的に神のもとに連れて行けるか否かは、内的生活の深さに比例するということです。キリストがこうお決めになったのです」[4]。

「人々は皆大変驚き、神を賛美し始めた」(ルカ5・26)。聖母は21世紀においても、私たちの証の実りとして、このような出来事が繰り返されるように、御子の前で取り成してくれています。

[1] ベネディクト十六世、「お告げの祈り」のことば、2006年2月19日。

- [2] 聖ホセマリア『神の朋友』253 番。
- [3] ベネディクト十六世、「お告げ の祈り」のことば、2006年2月19 日。
- [4] 聖ホセマリア『神の朋友』5番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikousetsu-daini-getsuyo/(2025/12/16)